

～産地向けから家庭菜園まで～

おいしさも見た目もいろいろ 雪印育成おすすめエダマメ品種のご紹介

雪印種苗株式会社
園芸作物研究グループ
野菜研究チーム 主任
大橋 真信



1. はじめに

近年は茶豆や黒豆のエダマメなど独特の味や風味を持つ品種が広く知られるようになり、エダマメの消費は増加傾向にあります。また古くからビールのつまみとして夏の味覚の定番だったエダマメは和食、洋食などさまざまな料理の食材としての用途も広がり、一年を通じておいしいエダマメを食べたいという要望が高まっています。このため直売場向けや家庭菜園などでもエダマメは定番の品目となっており、新規にエダマメ栽培に取り組み産地も増えてきました。

しかしエダマメは高温を好む野菜で、露地栽培では栽培可能な時期が限られることから、春や秋の低温期はハウス、トンネルなど様々な作型での栽培が必要になります。

弊社では多様化する嗜好、作型に対応するため、優良品種の開発に力を入れております。今回は弊社の品種の中でも特に莢の形状や食味にこだわった4品種をご紹介しますので、皆様の品種選定の参考にしていただければ幸いです。

2. 品種のご紹介

極早生品種

莢音(さやね)

【おすすめポイント】

莢色が濃く極大莢!食味も良好な極早生品種

「サッポロミドリ」と同熟期の早生品種ですが、中早生種「サヤムスメ」並の極濃緑、極大莢であり、極早生品種の中では収穫物のボリューム感、美しさが際立っています。エダマメ本来のコク、甘さを持ち食味にも定評があります。草勢がおと

なくコンパクトな草姿で、早播きや密植栽培でも過繁茂や倒伏の心配がありません。

【栽培のポイント】

極早生種ですので、早出しを目的としたハウス、トンネル栽培から春播きの露地マルチ栽培まで幅広い作型に適應します。主莖が伸びにくく節間が詰まる特徴があるため、特に束や切り枝での出荷に適しています。また抑制栽培(8月播き10~11月収穫)での束出荷にも適します。

一莢重が重く収量性は比較的高い品種ですが、着莢数は「サッポロミドリ」よりもやや少ないので草勢をしっかりと確保することが重要です。このためなるべく地力の高い圃場を選定し、栽培期間中の肥料切れに注意が必要です。また生育期間中の温度確保が重要で、特に開花期には日中30℃以上を目標に管理を行うようにします。



▲莢音(さやね)

中早生品種

恋姫(こいひめ)

【おすすめポイント】

甘みが極めて強く栗のような食感!大莢で食べごたえ抜群

甘みが強いことで知られる茶豆種を改良した、種子色が茶色の中早生品種です。甘みが非常に強く食味が良好で、茶豆種独特の匂いがいないため誰でも食べやすい品種です。莢は「サヤムスメ」並の極大莢で子実が大きく食べごたえがあり、栗のような食感があります。茶毛種ですが毛茸の量は少なく、茹であがり非常にきれいです。また高温期の栽培でも着莢が安定し、特に3,4粒莢の割合が高いため多収が期待できます。

【栽培のポイント】

中早生種の中では草丈が高く草勢が強い品種のため過繁茂になると倒伏する場合があります。このため無理な早播きを避け、露地マルチの直播き栽培では4月上旬からの播種を基本とします(一般地標準)。また窒素肥料の多用や密植栽培は徒長や過繁茂の原因になるので注意が必要です。

莢の黄化はやや早く、収穫適期は短い品種です。収穫遅れになると莢が黄化して外観が悪くなるばかりでなく食味も低下しますので、開花最盛期から30~35日を目安に適期収穫を心がけて下さい。



▲恋姫(こいひめ)

中生品種

青雫(あおしづく)

【おすすめポイント】

青大豆特有の甘さとおいしさ！
極濃緑莢で着莢良好

種子(種皮、子葉)が濃緑色の青大豆系のエダマメ品種で青大豆特有の旨みがあり、特にエダマメの旨み成分として知られるアミノ酸(グルタミン酸、アラニン)の含量が高い傾向があります。白毛で莢はやや小振りですが、莢の太りが良好で莢色が極めて濃いため外観は良好です。なお本品種はエダマメ期を過ぎて完熟にするときれいな青大豆となり、浸し豆などの用途にも用いることができます。

【栽培のポイント】

主茎が太く、根張りもしっかりしており比較的倒伏に強い品種ですが、他の中早生種と比較すると主茎が伸びて草丈が高くなるため倒伏には注意が必要です。一般地では露地栽培を基本とし、播種時期は5月以降とします。また窒素肥料の施用を控え、開花が始まる前までに除草を兼ねて中耕、培土(土寄せ)を行うようにします。

着莢数が多く収量性は極めて良好ですが不稔莢などの屑莢が多くなると収量が低下するばかりではなく選別作業の手間が増大します。不稔莢の発生を抑えるため、開花期以降の土壤水分不足には注意が必要です。

中晩生品種

雪音(ゆきね)

【おすすめポイント】

香りと甘み豊かな中晩生品種!

9月どりの豊産種

「サヤニシキ」並の熟期中の晩生種で、甘み、香りが極めて強く食味については極めて高い評価を得ています。莢は白毛で莢幅が広く太りが良好な大莢でボリューム感があります。莢色はやや淡いですが茹であがりはきれいな鮮緑色となります。生育が極めて旺盛で分枝が多く、着莢性は中晩生種の中でもトップクラスで収量性は極めて良好です。

【栽培のポイント】

中晩生種は開花のために一定の短日条件が必要となる(秋ダイズ型)ため、春早くに播種すると開花までに極めて長い

日数を要し、いわゆる「つるぼけ」となります。このため播種時期は5月末以降を厳守します。草勢が強い反面、やや倒伏しやすい傾向があるため、なるべく1本立て(株間25~30cm)にして密植栽培を避け徒長させないように注意します。「青雫」同様に窒素肥料の施用を控え、開花が始まる前までに必ず中耕、培土(土寄せ)を行うようにします。

また生育期間を通して病害虫の発生しやすい時期になるので早期防除を心がけます。

3.むすび

エダマメは前述のように消費者の嗜好が多様化し、産地や作型が分化する中で、消費者の皆様にも品種の特長を今まで以上に知ってもらいたいと思っております。

今回はそれぞれの熟期で特徴的で食味の評価の高い4品種を紹介いたしました。ぜひ一度自分で栽培した穫れたてのエダマメを味わって頂き、今後の生産に繋げて頂けることを期待しております。



▲青雫(あおしづく)



▲雪音(ゆきね)